



進化するカラーリングマムの色彩

コロナ禍で、葬儀での菊の需要が減ったため、カラーリングマムの供給と需要が増加している。カラーリングマムとは、大輪の電照菊を染料で染めた「染め輪菊」を意味する。

菊は、春の桜とともに秋を象徴する花として人気が高い。和菊の他に洋菊もあり、秋菊の他に夏菊・夏秋菊・寒菊もある。大輪菊の他に中輪菊・小輪菊もある。江戸時代から品種改良が行われ、白菊の他に赤・ピンク・黄・赤紫・紫・緑菊など、花の色も豊富である。

菊を表す英語は chrysanthemum で、chrys- が「黄色い」、anthemum が「花」を意味する。菊はアメリカ英語の略式で mum と呼ばれるため、「染め輪菊」の意でカラーリングマムというカタカナ表記が用いられている。この菊は、白色の大輪の電照菊を染料入りの水に生けることで、花卉をカラフルに染めている。

染料の種類は現在、35色。和カラーとして紺青、群青色、錆桔梗、孔雀青、花浅葱、水浅葱、牡丹色、藤紫、秋桜色、藤黄、承和色（そがいろ）、洗柿（あらいがき）、虹色の13色。その他にメロン、マスタード、モカ、オレンジ、ラベンダーなど、22色。JA 愛知みなみ輪菊会の HP を参照。 (吉村耕治)

●城一夫名誉会員を偲んでー 6

城一夫著 「フランスの装飾と文様」
パイ インターナショナル発行

2,300円+税 初版：2015年8月8日

冒頭でフランスの装飾と文様の特徴を古代から現代まで年表付きで歴史的に概観しています。本文は中世、ルネサンス、バロック、ロココ、アンピール、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、モダン、手仕事と民芸の世界、老舗メーカーのデザインに分類し、華麗なフランスの装飾と文様、及び色彩をテーマごとに解説しています。

基本的な構成は、ひとつのテーマを見開き2頁で解説し、次の2頁に関連した写真を掲載しています。中には写真が4頁に亘っているものもあり、全体としては半分以上の頁が写真で、豊富なビジュアルに感動します。

個人的には大好きな「バラ窓」、著者の講座で何度も紹介された「ベリー公のためのいと豪華な時禱書」、展覧会に行った「ジュイの更紗」などは写真が4頁あり、何度見ても感慨深いものがあります。

宝石箱のように美しい表紙カバーなど凝った装丁と合わせて、美しい写真の頁を眺めるだけでも幸せな気分にしてくれる本です。

(垣田玲子)

●大辞泉ひろいよみ 13ーい

色消し：風情を消すこと。興趣を削ぐこと。また、その様。つや消し。レンズなどの色収差を補正すること。

色消しレンズ：色収差を補正したレンズ。普通二種類以上のガラスを用いて二つ以上の波長の光について補正する。アクロマチックレンズ。

色気付く：異性に関心を持ち始める。性に目覚める。花や果実などが色づいてくる。

色子：いろこ。江戸時代、男色を売った歌舞伎の少年俳優。舞台子。蔭間。

色恋：男女間の恋愛や情事。色事。

色事：いろごと。男女間の恋愛や情事。芝居で、男女間の情事のしぐさ。いろ。

色事師：歌舞伎で、色事を演じるのを得意とする役者。情事の巧みな男。女たらし。

色好み：いろごのみ。情事を好むこと。また、その人。好色漢。恋愛の情趣をよく解すること。また、その人。風流・風雅な方面に関心や理解があること。また、その人。遊女などを買うこと。また、その遊女。

色粉蒔絵：蒔絵の一。錫粉や、朱、青漆粉などを、漆で描いた文様に蒔いたもの。

色盛り：女の、容色が最も美しい年頃。また、色情の盛んな年ごろ。女盛り。 (永田泰弘)